

都市再生整備計画 事後評価シート(原案)

宇宿中間地区

平成26年1月

鹿児島県鹿児島市



評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	鹿児島市	地区名	宇宿中間地区	面積	526.5ha
交付期間	平成21年度～平成25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	5,364.0百万円	国费率	0.4

1) 事業の実施状況		事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	提案事業	当初計画から削除した事業	基幹事業	提案事業	当初計画から削除した事業	基幹事業	提案事業
		道路(宇宿広木線、高麗通線、紫原中央線、郡元宇宿線、森山団地中央線、広木小学校線、郡元紫原線)、公園(永仮公園、鍋ヶ宇都公園、広木第1公園、広木第2公園、広木第3公園、中間公園)、土地区画整理事業(宇宿中間地区)			道路の舗装等の更新時期に合わせてバリアフリー化を図ることとしたため。			指標「道路の歩道バリアフリー化率」に影響するが、数値目標についての変更はなし。		
		法面整備、道路兼用護岸整備、公共下水道整備事業(汚水)、住居表示実施事業、配水管布設替事業(旧水道建設改良事業)			-			-		
		道路(紫原団地218号線)			-			-		
		道路(南新町二軒茶屋線)			交差点改良を行うにあたり、用地取得が可能となったため。			影響なし		
		-			-			-		
交付期間の変更		当初	平成21年度～平成25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-			
		変更	-	-			-			

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	避難場所までの平均距離	m	224	H20	158	H25		158	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の公園整備が完了したことにより、地域住民のコミュニティの場となる公共空間と災害時の避難場所が確保された。	-
指標2	がけの影響を受ける宅地面積	m <sup>2</sup>	5,194	H20	0	H25		0	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の法面整備が完了したことにより、防災性や安全性が確保され、安全な居住環境が形成された。	-
指標3	車が離合できる道路の割合	%	97	H20	100	H25		100	○	あり なし	土地区画整理事業区域内において、離合が困難な幅員5m未満の狭隘道路が解消され、新たな幹線道路や生活道路の整備により、車両が離合できる幅員が確保された。	-
指標4	道路の歩道バリアフリー化率	%	45	H20	78	H25		77	△	あり なし	● 歩道をバリアフリー化することにより、子供、障害者、高齢者を含め、すべての人々が安全でかつ快適に歩行できるようになった。	平成27年3月
指標5	住所のわかりやすさ	%	25	H20	75	H25		88	○	あり なし	住居表示実施後のアンケート結果によると、住所が分かりやすくなったと答える方が多く、住民の利便性が向上した。	-
指標6	下水道普及率	%	95	H20	98	H25		99	○	あり なし	公共下水道(汚水)の整備により、下水道処理人口が増加し、市民の快適な生活環境の確保と公共用水域の水質保全が図られた。	平成26年6月
指標7	配水管の耐震化	%	10	H20	16	H25		17	○	あり なし	配水管の耐震化を行うことで、地震時における漏水を防止し、地域住民に安定した水の供給が行えるようになった。	平成26年5月

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	土地区画整理事業区域内及び周辺地域の居住人口	人	17,878	H21				19,071			土地区画整理事業の推進により、住民が安心・安全に暮らせる良好な生活環境が形成され、定住意識の向上が図られたことで、区域内及び周辺地域の居住人口が増加した。	平成26年5月

4) 定性的な効果発現状況

- ・土地区画整理事業により、公共施設の整備改善が行われたことで、良好な住居環境の形成と宅地の利用増進が図られ、定住化に貢献した。
- ・土地区画整理事業により、狭隘な道路が解消され、消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、地域住民の安心・安全の確保に貢献した。
- ・スーパーやコンビニエンスストア、飲食店など商業施設の立地が進み、市民生活の利便性が向上した。
- ・歩道がバリアフリー化されたことにより、交通弱者の利便性と安全性が向上した。
- ・住居表示の実施により、訪問者に対して分かりやす街並みを形成することができた。

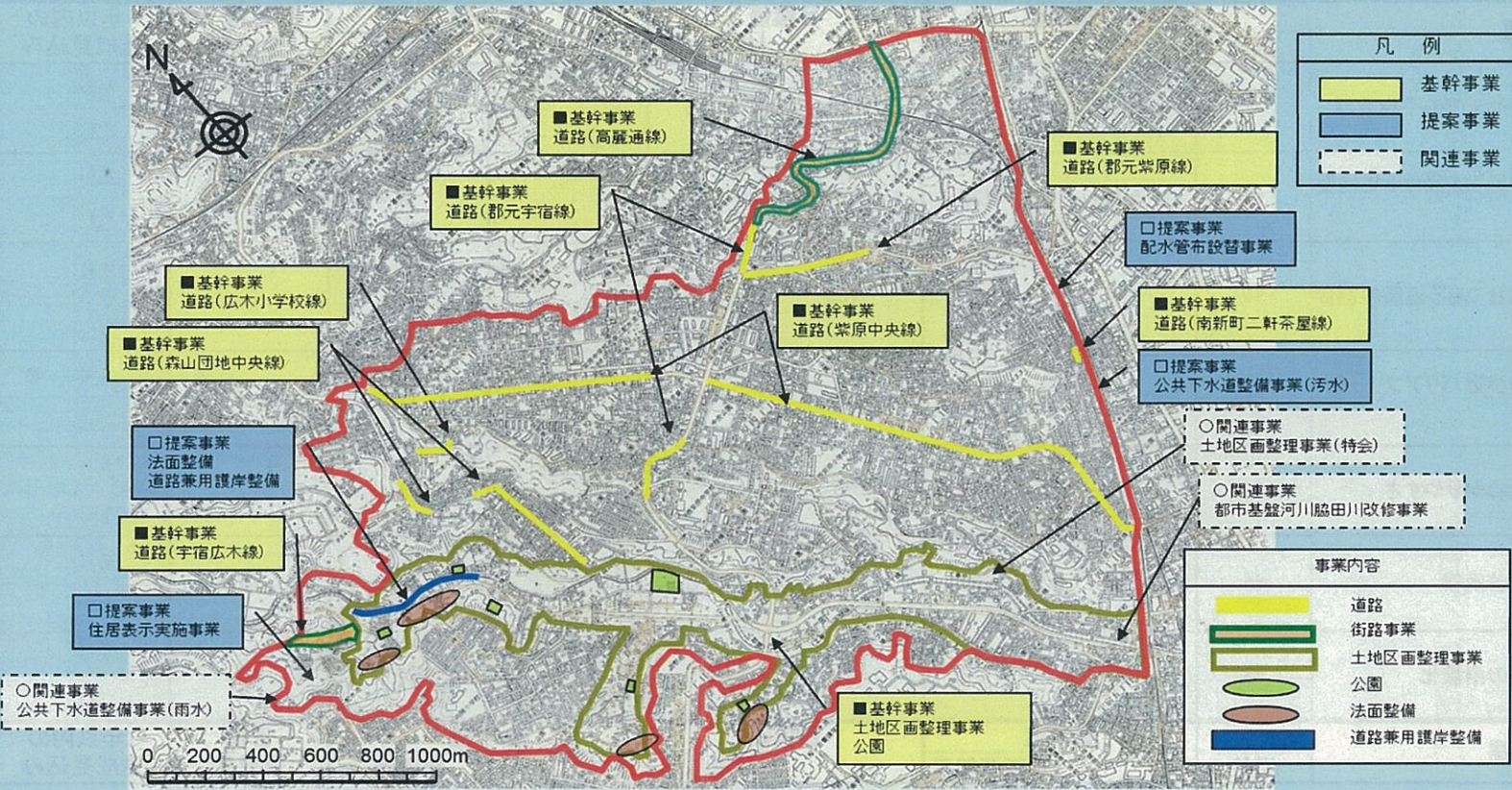
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	住民参加プロセス	持続的なまちづくり体制の構築		
	実施なし	公園設計に係る住民アンケート調査	実施なし	●	
	実施なし	実施なし	実施なし		



地区の概要

宇宿中間地区(鹿児島県鹿児島市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	値	年	値	年	値	年
大目標:住宅市街地の生活環境の整備 目標1:防災性の向上による住民が安心して暮らすことのできるまちづくり 目標2:交通環境改善による安全で円滑な道路網の整備 目標3:都市機能の充実を図ることによる快適なまちづくり	避難場所までの平均距離	単位:m	224	H20	158	H25	158	H25
	がけの影響を受ける宅地面積	単位:m <sup>2</sup>	5,194	H20	0	H25	0	H25
	車が離合できる道路の割合	単位:%	97	H20	100	H25	100	H25
	道路の歩道バリアフリー化率	単位:%	45	H20	78	H25	77	H25
	住所のわかりやすさ	単位:%	25	H20	75	H25	88	H25
	下水道普及率	単位:%	95	H20	98	H25	99	H25
	配水管の耐震化	単位:%	10	H20	16	H25	17	H25



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業区域内における、急傾斜面の法面整備や公園整備により、防災性が向上した。</li> <li>土地区画整理事業区域内について、河川改修と道路兼用護岸整備を実施することで、河川氾濫による災害防止と同時に道路網の整備が行われた。</li> <li>土地区画整理事業区域内及び周辺地域にあたって住居表示を実施したことにより、住民の利便性の向上や訪問者にやさしい街並みが形成された。</li> <li>歩道のバリアフリー化、公共下水道の整備及び、配水管の耐震化など、快適な生活環境を形成することができたが、一部整備が必要な箇所が残されている。</li> <li>今後、都市計画道路宇宿広木線が全線供用開始すると、都心部へのアクセスが向上する。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>良好な居住環境を維持するため、市民と協働した取り組みに努める。</li> <li>歩道のバリアフリー化、公共下水道の整備、配水管の耐震化の各事業については、引き続き他の事業で実施し、都市機能の充実を図る。</li> </ul>